

財務レビュー

経営成績の概要

2020年3月期における太陽誘電グループを取り巻く経営環境は、アジアや欧州で弱さがみられるものの世界経済全体として緩やかな回復が続いていましたが、2020年に入り新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響により、経済活動が抑制され急速に世界景気が減速するという状況で推移しました。先行きについては、当面、感染症の影響が続くと見込まれ、世界景気がさらに下振れするリスクが高まっています。

太陽誘電グループは、研究開発力や生産技術の強みを活かした最先端商品および高信頼性商品に加え、コア技術を活かしたソリューションビジネスを軸に、自動車、情報インフラ・産業機器、ヘルスケア、環境・エネルギーなどの注力市場を攻略することにより、中期目標の達成および経営ビジョンの実現を目指しています。さらに、収益性の向上や将来の部品需要の増加に応える体制を構築するため、ものづくり力の強化を進めています。生産能力の増強に加え、要素技術の高度化と生産工法の変革を進めることで、生産効率の向上を加速していきます。

2020年3月期は、電子化・電装化が進行する自動車向け、通信システムの高度化やIoTの進展に伴い高性能化が進む基地局通信装置・データセンターなどの情報インフラ向けに注力しました。大型・高耐圧・高信頼の部品需要が増加する中で、当社は商品ラインアップと生産能力を拡大し供給責任を果たすことで売上の増加につなげることができました。

これらの結果、2020年3月期の連結売上高は前期比2.9%増の2,823億29百万円となりました。

なお、2020年3月期における期中平均の為替レートは1米ドル109.06円と前期の平均為替レートである1米ドル110.49円と比べ1.43円の円高となりました。

販売費及び一般管理費

2020年3月期の販売費及び一般管理費は、481億73百万円となり、前期に比べ11億47百万円増加しました。

これは主に、従業員給料手当が増加したのに加え、減価償却費が増加したことによるものです。

この結果、営業利益は前期比5.5%増の371億76百万円となりました。

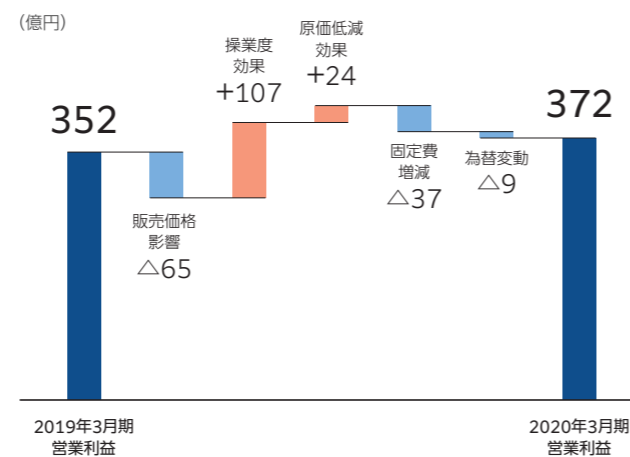
営業外損益

2020年3月期の営業外収益は前期に比べ5億24百万円減少し、9億72百万円となりました。一方、営業外費用は為替差損が増加したことなどにより前期に比べ6億1百万円増加し29億83百万円となりました。この結果、経常利益は前期比2.4%増の351億65百万円となりました。

特別損益

2020年3月期の特別利益は受取保険金が発生した一方で、投資有価証券売却益の計上が前期に比べ少なかったことなどにより前期に比べ3億9百万円減少し15億16百万円となりました。特別損失は災害による損失や子会社のエルナー株式会社にかかるのれんの減損損失などを計上したことから、前期に比べ47億97百万円増加し、128億63百万円となりました。この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比23.9%減の180億22百万円となりました。

■ 2020年3月期営業利益増減要因



財政状態の概況

資産

2020年3月期末における総資産の残高は3,431億22百万円となり、前期末に比べ142億60百万円増加しました。

流動資産は60億71百万円増加しており、主な要因は、現金及び預金の増加31億91百万円、仕掛品の増加29億21百万円です。

また、固定資産は81億89百万円増加しており、主な要因は、有形固定資産の増加188億82百万円、のれんの減少58億37百万円、投資その他の資産の減少49億30百万円です。

負債

2020年3月期末における負債の残高は1,326億67百万円となり、前期末に比べ97億60百万円増加しました。主な要因は、長期借入金の増加63億36百万円、未払金の増加34億8百万円です。

純資産

2020年3月期末における純資産の残高は2,104億54百万円となり、前期末に比べ45億円増加しました。

主な要因は、利益剰余金の増加150億45百万円、為替換算調整勘定の減少50億75百万円、自己株式の取得などによる減少39億82百万円、その他有価証券評価差額金の減少10億88百万円です。

キャッシュ・フローの状況

2020年3月期の営業活動によるキャッシュ・フローは524億34百万円の収入(前期比22.0%増)となりました。

主な要因は、税金等調整前当期純利益238億18百万円、減価償却費270億22百万円、減損損失52億90百万円、法人税等の支払額73億38百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは408億74百万円の支出(前期比21.7%増)となりました。主な要因は、固定資産の取得による支出440億67百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは48億51百万円の支出(前期比202.5%増)となりました。主な要因は、長期借入れによる収入90億円、自己株式の取得による支出40億6百万円、短期借入金の純減少額38億99百万円、配当金の

支払額27億76百万円、長期借入金の返済による支出24億77百万円です。

以上の結果、2020年3月期末における現金及び現金同等物は、前期末に対して56億30百万円増加し、572億85百万円となりました。

2020年3月期末の外部からの資金調達は、短期借入金192億50百万円、1年内返済予定の長期借入金26億63百万円、長期借入金347億52百万円からなっています。借入金は原則として日本において固定金利で調達しています。

さらに、財務の安定性のため期間3年、100億円のコミットメントライン借入枠を設定していますが、2020年3月末現在未使用です。

太陽誘電グループは、健全な財務状態と営業活動によりキャッシュ・フローを生み出す能力を有しており、太陽誘電グループの成長を維持するために将来必要な運転資金および設備投資資金を調達することが可能と考えています。

設備投資等の概要

2020年3月期は、総額440億67百万円の設備投資を実施しました。主な内容は、自動車、情報インフラ、スマートフォンなどに向けて旺盛な需要が継続している積層セラミックコンデンサの生産能力増強のための投資です。